

女子小学生におけるファッションの大人化

——ローティーン向け雑誌にみる子ども服の変化

山木しおん（跡見学園女子大学文学部現代文化表現学科）

1. 研究目的と背景

近年、子ども服が大人化していると感じた。女子小学生のファッションに向ける意識の高まりは、『東洋経済 ONLINE』の2018年6月19日の記事で「小学生向けのファッションブランドが増え、幼いころからオシャレを楽しむのも一般的になりつつあるいま、大人に負けないほど美容意識や人気が高い小学生も登場している」と指摘されている。

そこで、子ども服の大人化に着目し、(1) 子ども服はどのように変化してきたか(2) 子ども服が大人化する背景と要因の2点を本研究の研究目的とした。

2. 研究方法

女子小学生をターゲットとする『プチバースデイ』（1987年3月2003年9月）『CANDy』（2001年6月～2006年3月）『ニコプチ』（2006年9月～）の3誌と、女子大学生や社会人をターゲットとする『non・no』（1971年5月～）を比較することで、子ども服が大人化している現状を明らかにすることとした。調査は、『プチバースデイ』が創刊された1987年から2017年までの30年間を対象に行った。

3. 調査結果

雑誌調査の結果から、子ども服は2004年頃から徐々に大人化していることが明らかとなった。2004年頃に、それまでイメージキャラクターで人気を集めていた百貨店で店舗を展開するブランドが誌面から姿を消し、代わりに渋谷109系のファストファッションブランドが登場

した。子ども服はそれまで大人服とは全く違った流行を作り上げていたが、2004年頃を境に大人服との距離を縮め始めている。

2010年には、大人服と同一アイテムが流行した。2009年に『non・no』に掲載されたミニ丈のティアードスカートは、2010年から2011年にかけて『ニコプチ』にも登場する。色や柄のバリエーションは子ども服の方が豊富だったが、コーディネートに使用されたアイテムに大人服との違いは見られなかった。

2015年頃には、子ども服も大人服も、シンプルでベーシックなアイテムが好まれるようになる。無地の子ども服が数を増やし、配色や全体のシルエットを意識したコーディネートが展開された。

4. 結論と考察

調査結果から、子ども服が大人化していることは明らかとなった。また、子ども服が大人化している背景や要因として(1)百貨店中心に店舗を展開するブランド人気の衰退(2)ファストファッションブランドの登場(3)母親のファッションセンスの変化(4)SNSの普及があると考えた。これらの要因はそれぞれが絡み合って作用している。

1990年代後半から2000年代初頭にかけて、ローティーンの子どもの持つ母親は、「新人類世代」と呼ばれた世代にあたる。ブランド志向の強いファッションを好んだ「新人類世代」の母親たちは、百貨店ブランドの高級子ども服に魅力を感じた。その結果、百貨店で店舗を展開するブランドの人气が高まり、ブランドのイメ

ージキャラクターブームが巻き起こった。

しかし、2000年代中期になると、ストリート発祥のファッションが流行した「団塊ジュニア世代」の母親が台頭する。「団塊ジュニア世代」の母親が登場したことで、渋谷109系のブランドやギャップキッズ、ユニクロなどのファストファッションが人気を集めるようになる。特にギャップキッズやユニクロといったブランドは、大人服から派生しているという背景もあり、子ども服は大人服の流行をいち早く取り入れることが可能となった。

さらに、近年ではSNSが普及したことで、子どもが直接、流行情報を手に入れることが容易になっている。今後ますます子ども服の大人化が進み、子ども服と大人服の境界が完全になくなることを予感させられた。

注・文献

赤坂貴志、飯塚佳代、2018、「ファッションの購買行動におけるInstagramの影響について」『専修大学情報科学研究所所報』92:7-11。

ACROSS 編集室、2021、『ストリートファッション 1980-2020——定点観測 40年の記録』パルコ。

安積陽子、2022、『服育のすすめ』（kindle版）WAVE出版。

天野彬、2019、『SNS 変遷史——「いいね!」でつながる社会のゆくえ』（kindle版）イースト・プレス。

石井久雄、2009、「ファッションへの興味とその意味」『児童心理』63(4):317-321。

岩間夏樹、1995、『戦後若者文化の光芒——団塊・新人類・団塊ジュニアの軌跡』日本経済新聞社。

エリザベス・ユウイング、能澤慧子訳、杉浦悦子訳、2016、『こども服の歴史』東京堂出版。

お茶の水図書館、2009、『カラー復刻『主婦之友』昭和期目次Ⅰ』石川文化事業財団。

———、2009、『カラー復刻『主婦之友』昭和期目次Ⅱ』石川文化事業財団。

———、2010、『カラー復刻『主婦之友』昭和期目次Ⅲ』石川文化事業財団。

岡本節子、2003、『日本の子ども服物語』チャネラー。

角南登紀子、2009、「こどものファッションスタイルにみる団塊ジュニア世代の感性」『Artes:宝塚大学紀要』23:95-111。

柏木博、1998、『ファッションの20世紀——都市・消費・性』日本放送出版協会。

川嶋幸太郎、2009、『ファストファッション戦争』産経新聞出版。

川島蓉子、2008、「「ナルミヤ」ブームの終焉と進化するセレクトショップ」『エコノミスト』86(4):73-74。

北田暁大、大多和直樹、2007、『リーディングス 日本の教育と社会 第10巻 子どもとニューメディア』日本図書センター。

木下明浩、2016、「日本におけるアパレル産業の形成」『Fashion Talks...』3:42-51。

小泉和子、2018、『楽しき哀しき昭和の子ども史』河出書房。

斎藤環、2009、「ケータイ、メール、プロフ」『児童心理』63(4):322-327。

ジェイソン・ドーシー、デニス・ヴィラ、門脇弘典訳、2021、『Z世代マーケティング——世界を激変させるニューノーマル』（kindle版）ハーパーコリンズ・ジャパン。

ジャン・ボードリヤール、今村仁司訳、塚原史訳、2015、『消費社会の神話と構造 新装版』（kindle版）紀伊國屋書店。

高山英男、1991、「子どものおしゃれ感覚をめぐる親子関係——新世代の母と子のファッション意識」『児童心理』45(6):774-779。

田中東子、2021、『ガールズ・メディア・スタディーズ』北樹出版。

戸板康二、1972、『元禄小袖からミニ・スカートまで——日本のファッション300年絵巻』サンケイ新聞社出版局。

- 富川淳子、2017、『ファッション誌をひもとく〈改訂版〉』北樹出版。
- 仲新、1979、『学校の歴史 第2巻 小学校の歴史』第一法規出版。
- 永野泉、2007、「『婦人画報』にみる子供服の洋装化の過程」『服飾文化学会誌』8:75-87。
- 、2008、「子供服産業の発展と子ども観——家庭洋裁から既製服へ」『服飾文化学会誌〈論文編〉』9:43-54。
- 成宮雄三、2005a、「講演録 ブランド子供服で成功した我が社〈ナルミヤ・インターナショナル〉の新戦略」『カレントひろしま』238:34-38。
- 、2005b、『9割反対、だからうまくいく——ナルミヤの脱常識経営』商業界。
- 原田曜平、2020、『Z世代——若者はなぜインスタ・TikTokにハマるのか?』光文社。
- 藤田結子、成実弘至、辻泉、2017、『ファッションで社会学する』有斐閣。
- 堀越千代、2007、「カンパニー&ビジネス 一大ブームから一転子供服ナルミヤの盛衰」『週刊東洋経済』2007.3.31、東洋経済新報社。
- 山中亘、1986、『子どもたちの太平洋戦争——国民学校の時代』岩波新書。
- 山本武利、西沢保、1999、『百貨店の文化史——日本の消費革命』世界思想社。
- 若本純子、2021、「子どもたちはなぜ SNS にハマるのか——2010年代の SNS 利用とトラブルの動向」『教育実践学研究』26:19-31。
- 鷺田清一、2005、『ちぐはぐな身体——ファッションって何?』筑摩書房。
- 渡辺明日香、2016『東京ファッションクロニクル』青幻舎。
- 『雑誌新聞総かたろぐ 1990年版』メディア・リサーチ・センター。
- 『雑誌新聞総かたろぐ 1995年版』メディア・リサーチ・センター。
- 『週刊ダイヤモンド』「産業レポート ナルミヤ、ミキハウスの業績急降下——二極化する子ども服市場の勝者と敗者」2007.5.19、ダイヤモンド社。
- 『こども服白書』1998-2002、2004-2011、日本繊維新聞社。
- 厚生労働省、「平成13年度 出生に関する統計の概況」(2022.12.17 取得、<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyuu/syussyo-4/index.html>)。
- 、「令和3年度 出生に関する統計の概況」(2022.12.17 取得、<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyuu/syussyo07/index.html>)。
- 新潮社(2022.07.01 取得、<https://www.shinchosha.co.jp/>)。
- 総務省、「平成24年度版 情報通信白書」(2022.12.10 取得、<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/pdf/index.html>)。
- 、「令和2年度版 情報通信白書」(2022.12.18 取得、<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r02/pdf/index.html>)。
- 東洋経済 ONLINE、「女子小学生「大人顔負け」な今ドキお洒落事情」2018.06.19(2022.07.01 取得、<https://toyokeizai.net/articles/-/225661>)。
- ナルミヤ・インターナショナル(2022.12.06 取得、<https://www.narumiya-net.co.jp/>)。
- 日本雑誌協会(2022.07.01 取得、<https://www.j-magazine.or.jp/>)。
- 日本産婦人科医会、「女性の健康 Q&A——思春期とはいつからですか?」(2022.12.15 取得、<https://www.jaog.or.jp/qa/youth/qashishunki4/>)。